〔第2章〕

市民アンケート・こども意見聴取結果分析

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

（1） 回答者の属性と回答一覧

市民アンケート （市立高校と直接関わりない人が中心） 512人	こども意見聴取：市内中3・中2生 （実際に高校進学を控える当事者） 2，539人
市立高校との関わりなし　73．4％	進学希望　94．8％
中学生・高校生年代の子なし　77．1％	市立高校にきたことはない　73．0％
市立校の魅力が「あまり（ほとんど）伝わっていない」と回答　計60．5％	進学先として「興味がある」 〃　「少しある」　44．0％
上記から、本アンケートによる市民の意見は、「市立高校に期待する役割」や「市税を投入するうえでの公共的効果」への意見として理解する。	中学生の回答は、実際の高校選択における判断基準や不安を直接示している傾向が見受けられる。

富士市の高校教育と富士市立高校に関する市民アンケート結果（回答数：512人）

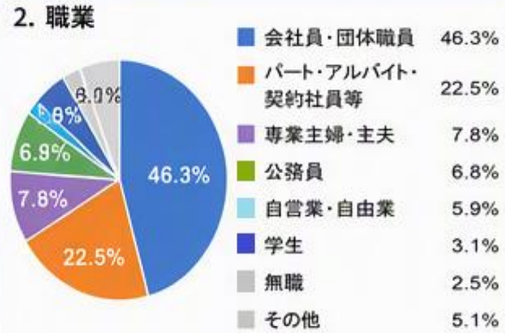
市民アンケート：富士市立高等学校の在り方審議会　資料

※複数選択可の設問は「回答数：512 人」に対する割合
上位 3つ選択の設問は「延べ回答数：1,536件」に対する割合

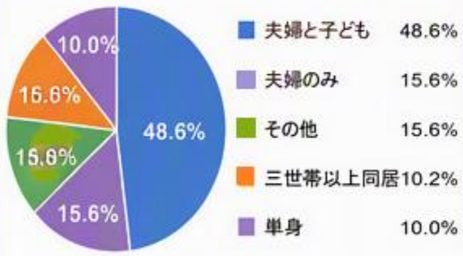
【基本属性】

1. 居住地区（上位10地区）

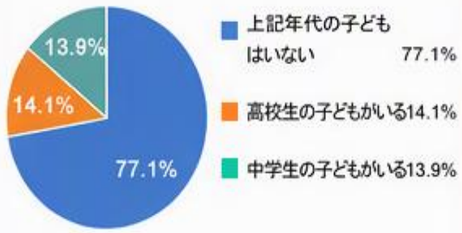
2. 職業



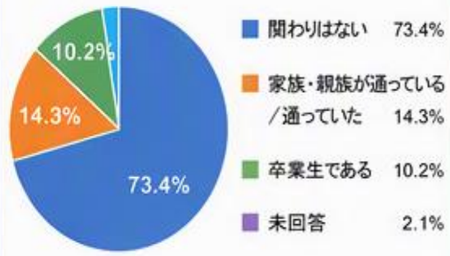
3. 家族構成



4. 中学生・高校生年代の子どもの有無



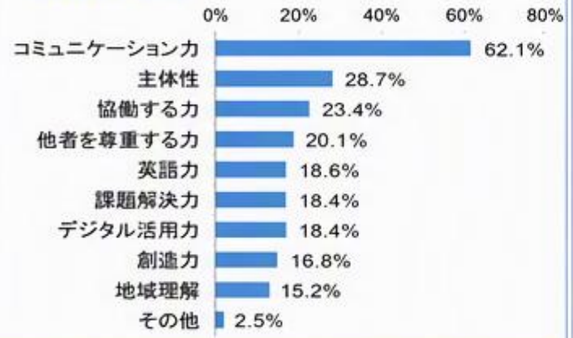
5. 富士市立高校との関わり



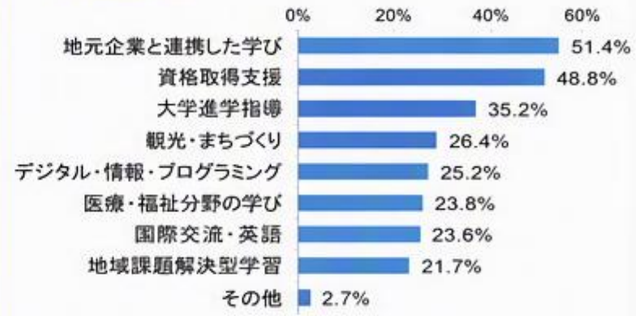
6. 市立高校は富士市にとってどのような役割を果たすべきか（複数選択可）

7. 現在の富士市の教育に特に不足しているものは何ですか（複数選択可）

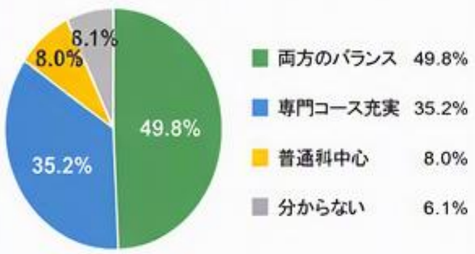
8. 子どもたちに特に身につけてほしい資質・能力（上位3つ選択）



9. 市立高校で今後強化すると良い教育内容は何か（複数選択可）

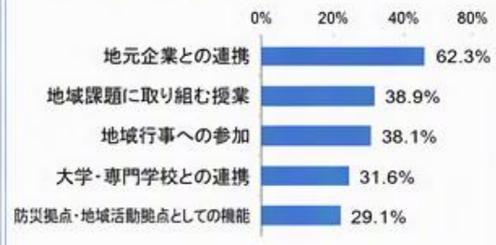


10. 普通科中心と専門コース充実、どちらが良いか



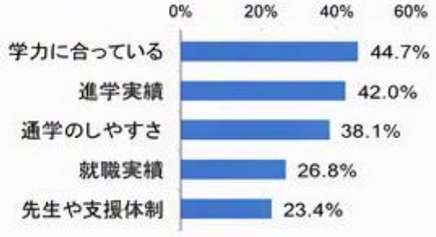
11. 新しい学科・コースで望ましい分野（複数選択可）

12. 地域にとって必要とされる学校であり続けるために重要なこと（複数選択可）



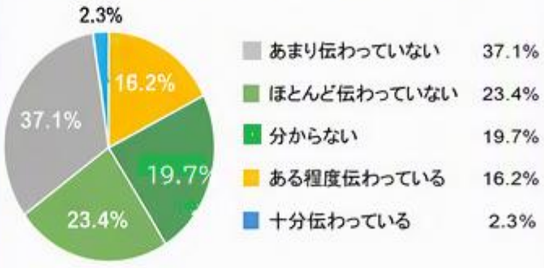
13. 生徒に地域でどのような活躍を期待するか（複数選択可）

14. 高校を選ぶ際、魅力に大きく関わる条件（上位3つ選択）

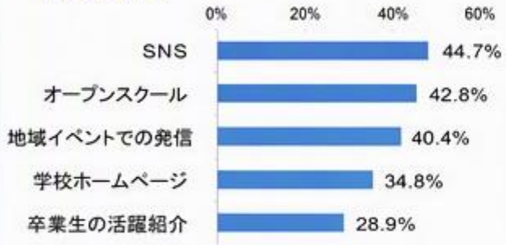


15. 特に充実してほしい支援は何か（複数選択可）

16. 高校の魅力は十分に市民に伝わっているか



17. 学校の魅力を伝えるために効果的な方法は何か（複数選択可）



【まとめ】市民の主な意見・傾向

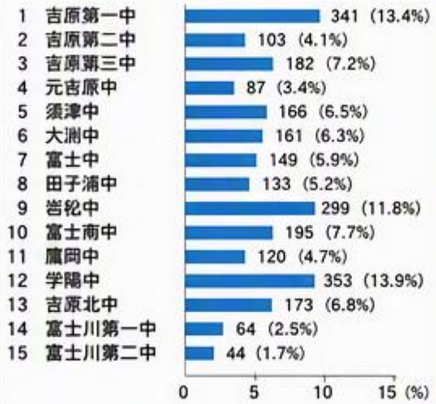
- 地元企業との連携や地域貢献を重視する声が多い。
- 教育の課題として「自分で考え行動する力」や「多様な学び方への対応」が上位。
- 身につけてほしい力では「コミュニケーション力」「主体性」「協働する力」が突出。
- 新しい学科・コースでは「情報・デジタル」「福祉・看護・保育系」が人気。
- 魅力の発信方法は「SNS」「オープンスクール」「地域イベントでの発信」が効果的。

富士市立高等学校に関するアンケート調査結果（中学2・3年生対象）

調査対象：市内中学2・3年生　2,539人（中学2年生 1,139人／中学3年生 1,400人）＜複数選択は回答率（%）を表示＞

質問1 学年を教えてください

中学校区を教えてください

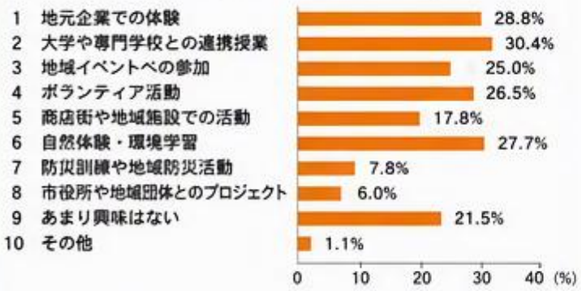


質問2 今の希望進路

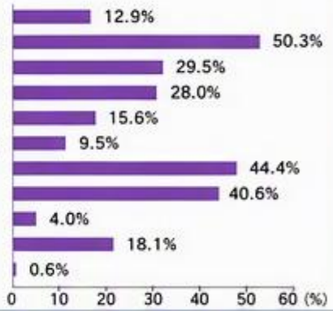
質問3 高校を選ぶときあなたが大切だと思うことは何ですか。（3つまで）

質問4 高校でやってみたい学びは何ですか。（3つまで）

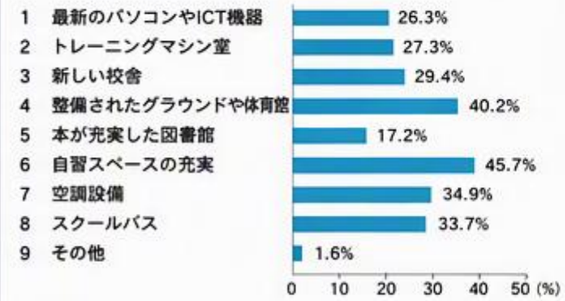
質問5 学校の外に出て行う学びがあるとしたら、どんな活動に参加してみたいですか。（3つまで）



質問6 高校にあったら魅力的だと思う学習環境は何ですか。（3つまで）

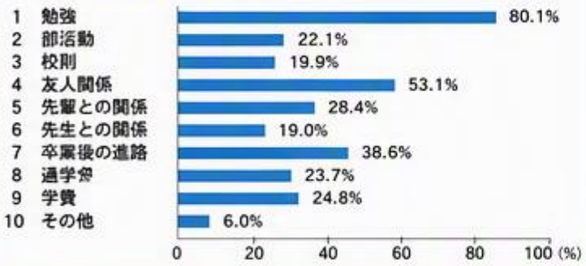


質問7 高校にあったら魅力的だと思う施設・設備は何ですか。（3つまで）

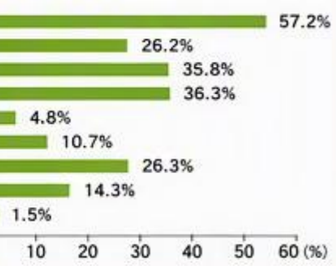


質問8 どんな雰囲気の学校に通いたいと思いますか。

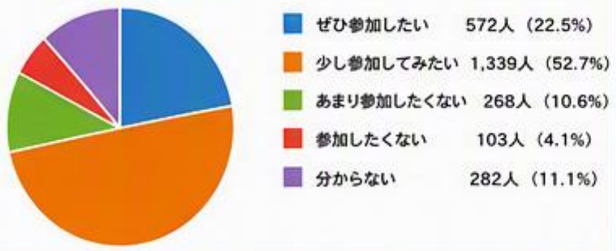
質問9 高校生活で特に不安に感じることは何ですか。（複数選択可）



質問10 卒業後の進路について、どんなサポートをしてほしいですか。（3つまで）

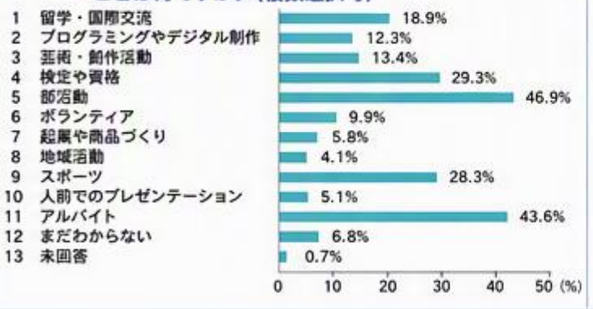


質問11 高校で、地域とかかわる活動があったら、参加したいですか。

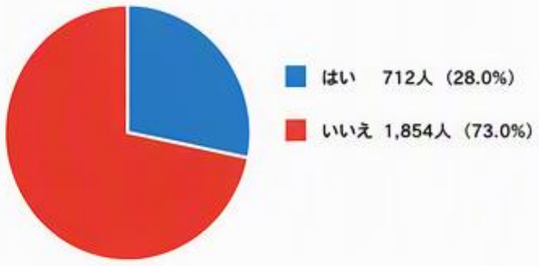


質問12 以下に参加してみたい（参加してもよい）と思う地域活動はありますか。（3つまで）

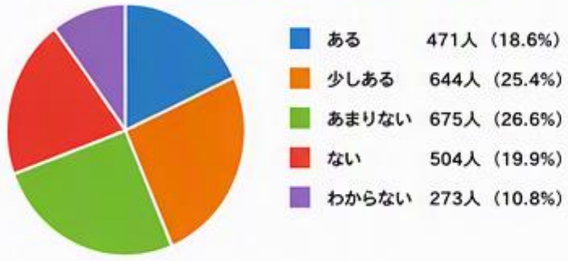
質問13 高校生になったら、学校の内外で挑戦してみたいことは何ですか。（複数選択可）



質問14 あなたは富士市立高校に来たことはありますか。



質問15 今のあなたは、進学先の選択肢として、富士市立高校にどれくらい興味がありますか。



【調査概要】

調査時期：令和８年７月

調査対象：富士市内中学校2・3年生

有効回答数：2,539人

※構成比（%）は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

視点① 地域社会や地元企業とのつながり

富士市市民アンケート（無作為抽出）と中学生意見聴取の結果を突きき合わせた分析

市民アンケートの結果（無作為抽出）

市民では、地元企業や地域産業との連携が**最も強く支持**されています。

① 市立高校の役割として「地元企業や地域産業を支え人材育成する高校」 **64.8%**

② 強化すべき教育として「地元企業と連携した学び」 **51.4%**

③ 地域に必要な取組として「地元企業との連携」 **62.3%**

④ 生徒に期待する活動として「地元企業との連携」 **51.0%**

共通する考え方

両者とも、学校を教室内だけで完結する場ではなく、さまざまな主体とつながる学校にすることを望んでいます。

中学生意見聴取の結果（中学2・3年生）

中学生でも、次のような地域・職業接続への関心が見られます。

仕事や職業を知る機会	36.3%
地域イベントの企画・運営	32.3%
大学・専門学校との連携授業	30.4%
地元企業での体験	28.8%
地域イベントへの参加	25.0%
観光・まちづくり	32.2%
地元企業との商品開発	12.6%

考え方の違い（視点の違い）

市民の視点（社会・自治体側の視点が強い）

「地域産業を支える人材」

- 地域の産業や企業を支える人材育成
- 地域経済の活性化や持続可能なまちづくり
- 地域全体の発展につながる人材を育てる

中学生の視点（自分の進路選択に役立つ視点共強い）

「仕事を知る」「体験する」「大学と学ぶ」

- 自分の興味や将来を見つけたい
- さまざまな体験や学びを通して視野を広げたい
- 進学や就職につながる学びを得たい

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

視点② 資格・就職・進学などの進路に関するニーズ

市民も中学生も、将来につながる実用的な学びを重視しています。

市民アンケートの結果（無作為抽出）

就職・資格取得に強い高校	52.9%
強化してほしい教育内容「資格取得支援」	48.8%
「大学進学指導」	35.2%
「デジタル・情報・プログラミング」	25.2%
「医療・福祉分野の学び」	23.8%

子ども意見聴取（中学2・3年生）

大学受験対策	57.2%
大学に向けた勉強	43.9%
資格取得につながる学び	36.6%
仕事や職業を知る機会	36.3%
卒業後の支援として資格取得支援	35.8%
パソコン・情報・プログラミング	16.5%

示唆する内容

市民・中学生ともに、**資格取得や就職・進学を支える教育への強い期待**が共通しています。
実社会につながる学びや支援の充実が、将来への安心や意欲につながります。

視点③ 個性を重視し、多様な進路に対応できる学校

市民も中学生も、一人ひとりの違いを大切にする学校を求めています。

市民アンケートの結果（無作為抽出）

自分で考え行動する力を育てる教育	48.4%
多様な個性や進路に対応する高校	43.9%
市の教育に不足している「多様な学び方への対応」	31.6%
心のケア・相談支援	18.6%
不登校経験者や外国籍児童などにも開かれた高校	18.6%

子ども意見聴取（中学2・3年生）

自分に合ったレベル別授業	50.3%
自習スペースの充実	45.7%
面接や小論文指導	26.2%
個別相談	26.3%
少人数授業	12.9%

示唆する内容

市民・中学生ともに、**一人ひとりの個性や多様な進路に対応する教育環境**を求めています。
すべての生徒が自分らしく学び、将来を描ける学校づくりが重要です。

2つのテーマを実現するために

- 資格・就職・進学を支える実用的な学びの充実
- 多様な進路に対応できる教育課程の整備
- 個性を伸ばし、主体性を育む教育
- 心のケアや相談支援体制の強化
- すべての生徒に開かれた包摂的な学校づくり

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

視点④ 身につけてほしい資質能力と学校生活の充実度

富士市市民アンケート（無作為抽出）と中学生意見聴取の結果を突き合わせた分析

市民アンケートの結果（無作為抽出）

市民が子どもに身につけてほしい資質として挙げたものは、

コミュニケーション力	62.1%
主体性	28.7%
協働する力	23.4%
他者を尊重する力	20.1%
課題解決力	18.4%

共通する考え方

市民は、社会に出てから必要な能力として
コミュニケーション力や主体性を重視し、
中学生は、実際の高校生活における
友人関係や安心感を重視しています。

表現は異なりますが、両者とも、
富士市立高校に対して、
学力や資格だけでなく、
人と関わり、自分で考え、
行動できる人を育てる学校を
求めています。

中学生意見聴取の結果（中学2・3年生）

中学生の回答でも、

高校生活で特に不安に感じることは「友人関係」と回答	53.1%
友達と楽しく過ごせる	38.1%
学校の雰囲気が良い	33.6%
「自由でのびのびしている」学校	21.4%
いじめなどが少なく安心	11.7%

人と関わり、自分で考え、行動できる人を育てることが、
富士市立高校に求められる大切な役割です。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

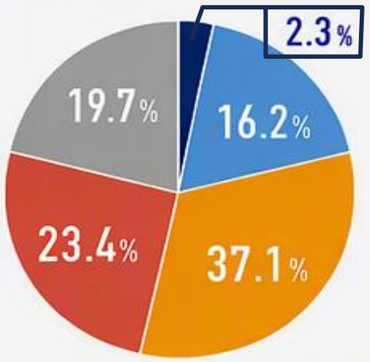
視点⑤

学校の魅力発信と認知度について

富士市市民アンケート（無作為抽出）と中学2・3年生意見聴取の結果を突き合わせた分析

市民アンケートの結果（無作為抽出）

市民では、学校の魅力が十分に伝わっていないという認識が強くあります。



- 十分伝わっている 2.3%
- ある程度伝わっている 16.2%
- あまり伝わっていない 37.1%
- ほとんど伝わっていない 23.4%
- 分からない 19.7%

市民が支持する情報発信方法（複数回答）

- SNS 44.7%
- オープンスクール 42.8%
- 地域イベントでの発信 40.4%
- 学校ホームページ 34.8%

もっと知る機会や、実際に触れる機会が必要と感じています。

共通する課題

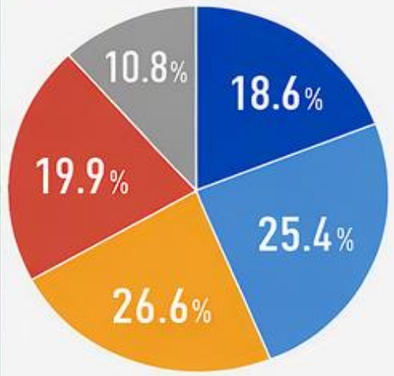
市民・中学生の双方に、富士市立高校の以下の情報が十分に伝わっていません。

- 学科の特色
- 授業内容
- 進学・就職実績
- 学校生活
- 卒業後の進路
- 他校では経験できない特別な学び・取組

この点は中学生の
「実際に学校を見てみたい」
「学校生活の雰囲気を知りたい」
というニーズとも結びつきます。

中学生意見聴取の結果（中学2・3年生）

富士市立高校への関心



- 興味がある 18.6%
- 少しある 25.4%
- あまりない 26.6%
- ない 19.9%
- 分からない 10.8%

「富士市立高校に訪れたことがある」と回答した中学生は
約27%（685人）でした

その内訳は、上位から

1. 文化祭・学校行事への参加
2. 学校施設を、部活動やクラブ活動の会場として利用
3. 学校見学・高校見学・進学検討
4. 小学校・中学校の学習や交流活動
5. 地域イベント・幼稚園・保育園関連

市内中学生には、学校行事だけでなく、スポーツ・文化・進路検討・地域交流の場としても利用されています。

まとめ

特に市民は「学校の魅力が十分に伝わっていない（分からない）」との認識が目立ちます。
一方で、中学生の4人に1人が学校を訪れており、部活動、進路検討、地域交流など、多様な学びの機会が提供されています。
課題は、こうした学校の取組について、関係者以外の市民への認知度が低い点です。
多世代の人々が学校を訪れ、実際に知る・触れる機会の創出が求められています。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(2)全体の傾向

視点①　地域社会や地元企業とのつながり

・市　民・・・地元企業や地域産業との連携を強く支持している

「地元企業や産業を支える：64．8％」「地元企業との連携：62．3％」

・中学生・・・‘自身の関心や進路選択に役立つか’の視点で考えている

「仕事や職業を知る機会：36．3％」「地域イベントの企画運営：32．3％」

視点②　資格・就職・進学など進路ニーズ

・市　民・・・就職や資格取得に向けた支援強化を期待している

「就職・資格取得に強い高校：52．9％」「資格取得支援強化：48．8％」

・中学生・・・大学受験に向けた学習を重視している

「大学受験対策：57．2％」「大学に向けた勉強：43．9％」

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(2)全体の傾向

視点③　学習支援と環境の在り方

ともに個性に応じた学びの支援と多様な進路へ対応を求めている

・市　民・・・「自立性を育成する教育:48.4%」「多様な個性や進路対応:43.9%」
「多様な学び方への対応:31.6」

・中学生・・・「習熟度別授業:50.3%」　「自習スペースの充実:45.7%」
「面接や小論文指導:26.2%」「個別相談:26.3%」

視点④　資質能力と学校生活の充実度

・市　民・・・社会に出てから必要な資質能力の習得を強く求める
「コミュニケーション力:62.1%」「主体性:28.7%」「協働力」23.4%」

・中学生・・・実生活の人間関係における心理的安全を重視する
「(不安は)友人関係:53.1%」「友達と楽しく過ごせる:38.1%」ほか

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(2)全体の傾向

視点⑤　学校の魅力発信(広報)

※(とくに市民の声から)市立高校の魅力発信が不足している可能性

・市　民・・・「あまり伝わっていない:37.1%」　「ほとんど伝わっていない:23.4%」
「分からない:12.7%」

・中学生・・・「(市高に関心が)ある:18.6%」　「(〃)少しある:25.4%」
「市立高校を訪れたことがない中学生:73.0%」

視点⑥　優先事項の違い

・市民は専門教育(実学系)を支持するが、中学生は大学進学(普通教科)の充実を求める

・市民は「地元定着」を求める声が多いが、中学生は「外への選択」を希望する意見もあり

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

（2）全体の傾向

視点⑦　各アンケート全体からの見取り

・中学生の傾向　・・・　地域活動、企業体験、大学連携、ボランティアに関心はあるが、起業や地域課題、環境・防災への学びは強い動機にはつながらない。

（自分に合う学習、進学、部活動、友人関係を強く意識）

・市民の傾向　・・・　地域連携や探究に一定の期待の声。今後を見据えた学問領域（AI・デジタル・起業・英語）、富士市を支える実学領域（製造業・医療・福祉）への期待が大きい。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(2)全体の傾向

視点⑧　事務局2案への示唆

A案への示唆

「探究」の言葉だけでは主要な志望動機に繋がらない。

「探究」を、生徒の個の学び(関心)や進路に紐づけて具体的な価値となることを伝える必要性あり。

B案への示唆

理念は魅力的だが、中学生の関心度(起業や商品開発6.0%、プログラミング・デジタル制作12.3%)からは、これだけでは志願に繋がりにくい。理念を進学、資格取得と就職、行事等と同時に整える必要性あり。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(2)全体の傾向

視点⑧－1　その他、中学生の視点から

部活動への参加

・「学校内外で挑戦したいこと」　部活動　46.9%

・「高校に合ったら魅力的な環境」　部活動の充実　44.4%

学校行事

・「どんな雰囲気の学校に通いたいか」行事が盛り上がる　20.4%

・「高校に合ったら魅力的な環境」　行事の充実　40.6%

アルバイト

・「学校内外で挑戦したいこと」　アルバイト　43.6%

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(2)全体の傾向

視点⑧－２　その他、市民の視点から

新学科、新コースを設置するとした場合、望ましい分野への回答

- 情報・デジタルコース　　・・・ 45.1%
- 福祉・看護・保育系コース ・・・ 41.4%
- 国際・外国語コース　　・・・ 34.0%
- 地域創造コース　　・・・ 31.4%

「市立高で今後強化すると良い内容」(質問9)、「市立高校が必要であり続けるために重要なこと」(質問12)、「市立高生徒へ期待すること」(質問13)

⇛　いずれの質問も「地域企業と連携」した学びが第1位(過半数)

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

（3）市民の期待 （自由記述の読み取りから）　※別紙参照

富士市立高校に求められる基本的な役割についての質問

市民意見の大きな傾向として、市立高校には、一般的な進学校や部活動の強豪校ではなく**「富士市が設置する意味」を明確に持つ高校**であることが期待されていることが読み取れた

〈　市民が期待する学校像　〉

地域に根付きながら、地域の外にも挑戦できる人材を育てる存在

▼

「地域密着」と「多様な進路」を両立する高校　と整理した

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

「地域密着」と「多様な進路」を両立する高校　と考える根拠

【自由記述からの見取りと共通理解】

- 富士市を学びの起点として、全国・世界に挑戦し、将来は富士市に残る（戻る）ことも、外から富士市を支えることもできる人材を育成。
- 進学実績だけでなく、就職・資格・技術・地域貢献など**多様な成果が学校の価値**として捉えられていること。
- 市立高校には、教育機関としてだけでなく、**地域課題の解決拠点・市民の学びの場**としての役割も期待されていること。

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

（3）市民の期待 （自由記述の読み取りから）

期待の柱	期待の具体
① 地域貢献人材の育成	富士市の課題を理解し、地域活動・起業・情報発信などを通じて地域に還元する人材
② 地域産業と接続した実学	地元企業・行政・大学等との継続的な連携、課題解決型授業、職場体験、資格取得
③ 富士市を教材にした探究	産業、歴史、文化、自然、防災、福祉、環境などを学び、実際の地域課題の解決に取り組む学び
④ 多様な生徒・進路への対応	大学進学、専門学校、就職、起業、地域活動など、多様な将来像に応える教育

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(4)市民間で分かれた論点

→ **市立高校としての公共性 × 特色化のバランス** が問われている

・県外生徒の受け入れについて

【市民優先を求める意見】

「市立高校として、富士市の生徒を優先すべき」「地元の子どもが入学しやすい学校にしてほしい」「市税を市外・県外生徒のために使うことへの疑問」・・・等

【県外募集に理解を示す意見】

「全国から生徒を集める特色校を目指してもよい」　「外から来た生徒が富士市の魅力発信に貢献する」「多様な生徒との交流が市内生徒への刺激になる」・・・等

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

（4）市民間で分かれた論点

・スポーツ強化の位置付け

【肯定的な意見】

「文武両道やスポーツを通じた人材育成を進めてほしい」「施設を活用し、富士市のスポーツ振興に繋げてほしい」「小中学生や地域クラブとの交流促進を」

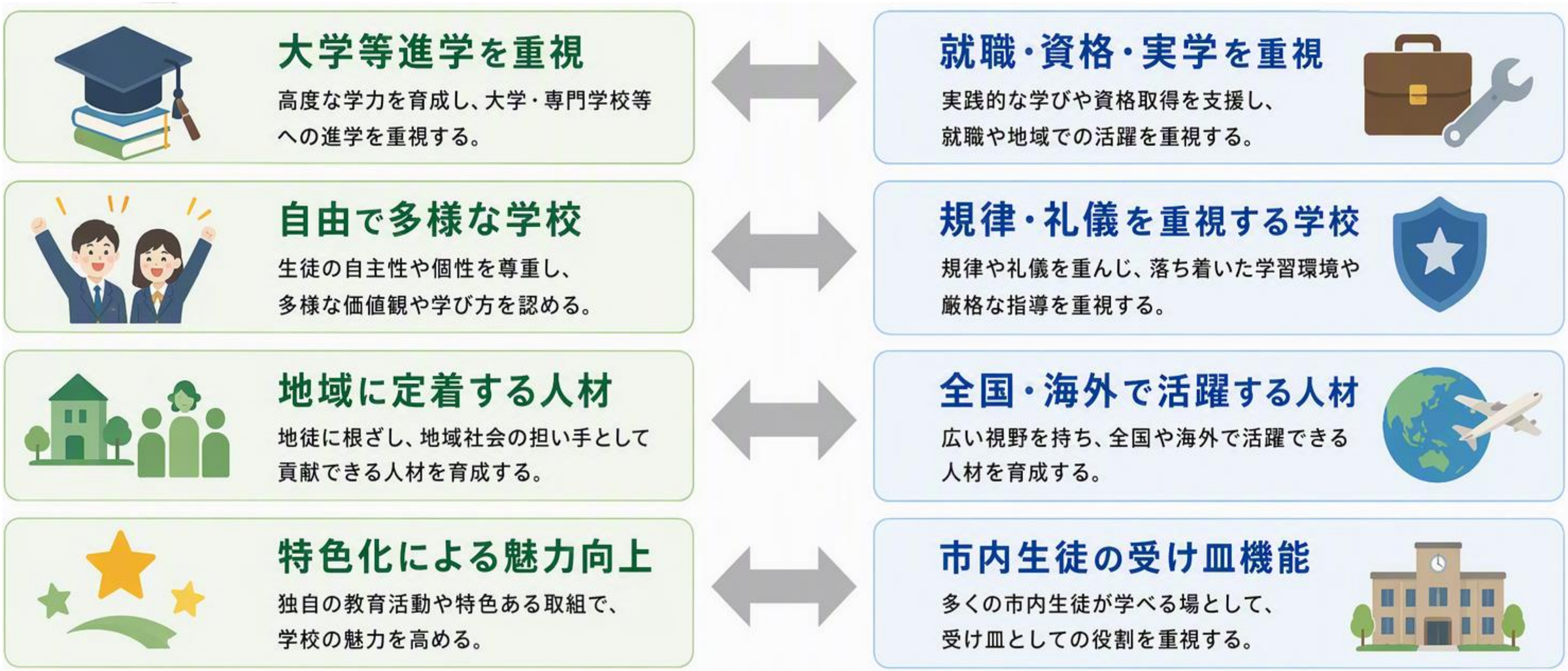
【慎重な／批判的な意見】

「スポーツ探究や強化の意義が分かりにくい」「県外生徒の受け入れに市税を投入していることに疑問がある」「商業、就職、資格、理数教育等を優先すべき」

〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

「地域密着」と「多様な進路」を両立する高校

の視点から実現する場合に熟議が必要な要素



〔第2章〕 市民アンケート・こども意見聴取　結果分析

(5)示唆すること（方向性を検討する上で考慮したい事）

市民意見が示唆すること

地域とのつながりを重視する声が多い

地域理解・地域貢献・地域課題解決への期待

多様な進路・成果を重視する声が多い

進学・就職・資格・技術・起業・地域活動など多様な価値を評価

市立高校の公共性への期待が高い

教育機関としての役割に加え、市民の学び・交流・防災など公共的役割への期待

特色化と市民優先のバランスが重要

市内生徒を大切にしながら、特色・魅力づくりとの両立を求める声

学校の方向性を検討する上で考慮したい事

❶ 「市立高校が必要」とする理由の明文化

- 地域貢献人材の育成
- 地域産業との接続
- 多様な生徒への教育機会
- 地域課題の解決
- 市民への教育的・公共的還元

市立高校としての使命を、教育目標だけでなく、具体的な成果指標と併せて示す必要がある。

❷ 地域連携の取組を広域的・深化的な仕組みへ発展

- 地元企業・行政・大学・地域団体との継続的な連携
- 企業課題を題材にした授業
- 長期インターンシップや資格取得
- 地域課題解決型の探究活動
- 卒業後の就職・定着・Uターンにつながる支援

地元企業 行政・大学 地域団体 → 連携・協働の仕組み化 → 探究・実践・学びの深化 → 就職・定着・Uターン支援

持続的な連携が、地域と高校の価値を高める

❸ 市民にとってのメリットを明確にする

- 市内生徒の入学機会や経済的支援
- 通学環境・安全対策の改善
- 施設の市民開放
- 小中学生・地域クラブとの連携
- 防災・福祉・環境等における地域貢献

市民生活の向上と地域の持続的発展に貢献する高校へ

❹ 市民間における理想の違いを踏まえ、設計のバランスを考慮する

- 市内生徒を大切にしつつ、市外・県外募集の目的を明確化
- スポーツ強化を地域還元・教育目的と結び付ける
- 進学、就職、資格、起業、地域活動など進路を複線化
- 多様性を受け入れながら、安心・規律・学習環境を確保

多様な価値観を尊重しながら、安心して学べる環境を整える